

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(井伊谷小)学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- 学校運営協議会が学校と保護者、地域をつなぐ組織になるために、委員一人一人が、学校運営について地域にも保護者にも説明できるようにする。
- 学校運営協議会は、積極的に学校運営に関する意見を述べる。同時に学校も学校運営協議会を効果的に使い、学校運営の後ろ盾としたり、保護者や地域とのつながりを作ったりする。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校運営の基本方針について、毎回校長より詳細に説明があった。プレゼンを示したり、KJ法で意見を出し合ったりするなど進め方を工夫し、熟議を深めることができた。
- 運営協議会の委員同士の雰囲気良く、率直な意見を出しやすかった。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 運営協議会で学校運営方針を熟議することそのものが、教育活動の充実につながっていると考えている。
- 学校支援活動は積極的には行っていない。本当に学校に必要な支援活動とは何かよく話し合っていきたい。
- 校長や教職員のために熟議したことが役立っているのか心配だったが、ランドデザインなどに熟議の成果が反映されていた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 学校ホームページやブログなどで学校運営協議会の情報は発信されている。
- 保護者や地域住民が自らホームページやブログを見にいかなければ情報を得ることはなため、十分に周知されているとはいえない。さくら連絡網などで通知したり、参観会などの折に「学校運営協議会」の名札を付けたりするなど発信の工夫をしていきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 委員は、学校運営協議会についての理解を広めるために、地域の子供や住民と積極的にコミュニケーションをとり、学校の教育活動や努力を伝えるとともに、学校が地域によって支えられていることをアピールする。
- 子供を取り巻く社会環境が大きく変化している。委員一人一人が社会や教育の変化について自ら学び受け入れ、それを踏まえて様々な角度から熟議をする。